

慶應義塾大学医学部皮膚科 100 周年をお祝いして

この度は慶應義塾大学医学部皮膚科 100 周年誠にありがとうございます。

私は 1977 年東京大学卒業ですので当時の教授は旗野倫先生でした。長島正治先生が助教授をつとめておられました。長島先生といえば Prurigo pigmentosa や PPK 長島型など御自身の名前がついた疾患を発見された著名な先生です。その下に次の教授になられた西川武二先生や北村啓次郎先生が講師と、そうそうたるメンバーが揃っていました。西川先生や北村先生は国試対策の授業をされており、私自身慶應大学まで通い聴講させて頂きました。大変お世話になりました。

西川武二先生が教授になられてから先生のご専門の「水疱症」が教室のテーマとなり、橋本隆教授（久留米大学）、清水宏教授（北海道大学）、天谷雅行教授（慶應大学）など、俊英が集合して世界的にみても水疱症研究の一大拠点でありました。橋本隆先生は BP 患者から BP180 特異的モノクローナル抗体を同定されたり、その後はお得意のウェスタンブロットを用いて次々と新しい水疱症をみつけられました。我々も BP 関連疾患の診断では大変お世話になりました。ありがとうございました。清水宏先生は北海道大学を日本一にするとの強い志で研究、臨床に取り組みられました。BP180KO マウスを用いた数々の研究や角化症の分子メカニズムの研究（秋山真志名古屋大学教授のご研究）、表皮水疱症の幹細胞治療など特筆すべき研究をされました。教室員が皆見賞や JSID 賞など最も多く受賞されているものと思います。また、「新しい皮膚科」、最も読まれている素晴らしい教科書を執筆され、版を重ねておられます。

2005 年には西川武二先生の後任として、天谷雅行先生が教授になられ、益々教室が発展しました。天谷先生は若い時代から存じていますが、「世界の天谷」として日本を代表する皮膚科研究者です。日本免疫学会賞という日本免疫学会の最高賞を受賞されたり、SID での Montagna award、米国 National Academy of Science の Institute of Medicine の international member など、日本人が今まで成し遂げられなかった功績を次々と打ち立てられました。水疱症の分野だけでなく、アトピー性皮膚炎など専門領域も拡大されてきました。また、皮膚科学だけにしぼられず、基礎免疫学、特に自己免疫の分野では新しい概念を打ち上げられるなど、華々しい成果をあげられています。2018 年、私のあとを継いで日本皮膚科学会理事長になられ、日本の皮膚科をリーダーとして引っ張っておられます。学内でも医学部長 2 期目をつとめられています。そのご業績は枚挙にいとまがありません。この度の 100 周年を迎えられるにあたり、天谷先生が教授をつとめられているのも天谷先生が何かを「もっておられる」ものと思います。

この度は 100 周年本当におめでとうございます。教室の益々のご発展を心よりお祈り致します。

山梨大学 学長 島田 眞路